

† イースター (復活祭) とは … †

2019年4月24日(水)
つのぶえ保育園(石田)

Easter(イースター)は、『復活祭』とも言われる、キリスト教の行事の大切な記念日の1つです。2019年前、イエス・キリストは、イスラエルの小さな田舎町 ベツレヘムの馬小屋で、「聖霊」といわれる神様の不思議な力によって、ナザレに生まれ育った 処女(おとめ) マリアを母として人知れず ひっそりと この世に誕生されました。この出来事を 礼拝する日が、『クリスマス』です。



その後、イエスさまは、ナザレに戻り大人になるまで、大工の父 ヨセフの息子として家族と共に暮らしました。そして30歳の時、神様の召命を受け指導者として神様の働きを始めます。(これを“公生活”といいます。)それから3年間、イエスさまは今まで過したふるさとの地や家族を離れて、様々な場所を巡り歩き、各地で出会う大勢の人々、その1人1人に向き合い励ましや慰め、祝福を願い祈ると共に生きる力や希望を与え、神様の永遠の愛を 力強く温かく示され続けました。

けれども、命の価値や人としての あるがままの在り方・自由やその本質について 大胆に説き歩くイエスさまを 疎ましく感じる者達がいました。それは 頭が良いことを自負し、法や規律に縛られ旧くからの慣わし・地位や名誉・肩書を重んじ、周りからは「先生」と敬われている学者達でした。イエス・キリストに関する噂や称賛を耳にする度“自分達をおびやかす邪魔な存在”となっていきその想いは いつしか 恐れとなって、妬みや憎しみ、傲慢や 焦り等の 心の醜さへと変わりました。ついには「イエスを殺そう!」と、赦し難く恐ろしい計画を立てるまでの心へと 歪んでいきました。この卑劣な企みは あっという間に拡がり、果てしない数の人々の心を蝕み 巻き込んでいきました。おびただしい数の“悪の群衆”と化した人々の 無責任な心は、何の罪も犯していないイエスさまを極刑である十字架に はりつけるまでに エスカレートをしていきました。この群衆たちの殆んどはわずか一週間前、イエスさまを 熱狂的に ほめたたえながら、大喜びで追いかけていた人々でした。イエスさまのことを大絶賛した、その 同じ心と口で、今度は 責め、あざけり、ののしり続けました。何一つ根拠のない 世の噂を信じ、流されるがままに暴走し続けていた彼らの姿と その愚かな心は現代の社会を生きる 私達人間の、誰にでも潜んでいる弱さそのもので在ることに気づかされます。

一方、処罰決定の全権を委ねられた総督ピラトは、直接イエスさまに会い 尋問を繰り返しますがどうしても 罪を見出すことは出来なかったため 釈放を考えますが「殺せ! 殺せ!」と大騒ぎする群衆の勢いを 鎮めることが不可能だったので、この処罰決定の権限をすべて、民衆へ負わせるため『責任転嫁』という、人として最も卑劣な手段をもって、重要な裁判と刑の執行を行ったのでした。

このように、イエス・キリストが十字架にかかれた原因は、御自身の罪や悪行によるのではなく私達すべての人間が本来持っている、心の弱さや醜さ等からによるものであったことがわかります。自分以外の 他の人に対する 嫉妬、劣等感、怒り、嘘、虚栄、陰口、無責任、無関心、無視、暴力暴言、疑心、不信、傲慢、これらはどれも、私達人間の心に内在している悪であり、大きな罪です。誰もが持つ、この どうにもならない汚れた心こそが、その人の本質を 奪い、失わせてしまいます。その恐ろしい想いは 人として生きている誰もが抱えているのだということを痛感させられながら遙か昔の この十字架の出来事は、それぞれの心への戒めであることを 改めて気づかされています。

イエス・キリストは、このように 罪深い心を持つ この世の すべての人間の 身代りとなられて 金曜日の午後、人としての生涯を ついに閉じられました。イエスさまが十字架上で祈られた言葉に 「父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしているのか自分でわからないのです(ルカ23:34)」と聖書に記されています。自身の最期の時に至ってもなお、自分のことを否定し なじる人間達を 想い、赦し、神様に祈り続けられました。その心は どんなに深い悲しみで溢れていたことでしょう。他人のために 自らの命を捨てること、自分を死に追いやった 相手のために平安を祈ることなど、私たち人間には 到底 出来ません。赦すことがどんなに困難であるかも考えさせられる出来事です。

亡くなられた後、今まで傍にいた弟子など 身近な者達は イエスさまの遺体を丁寧にお墓へ葬り 大きな喪失感の中で 心細さと絶望感に襲われながら、それぞれに悲しみの時を過ごしていました。

それから3日後の 日曜日の朝早く、女の弟子達がお墓に行ってみると、そこには 遺体を包んだ 白い布だけが残されていました。まもなく 天の御使いから『彼はここにはいない、生き返られた』と 告げられたので、急いで 他の仲間たちのもとへ戻り その出来事を ありのままに 伝えました。それを聞いた他の弟子達は 当初、この事実を なかなか信じられず、受け入れられませんでした。その直後、手の平の釘の跡や お腹の槍の跡を見せて 現れたイエスさまの姿を 目の当りにした時 よみがえりという この事実を 畏れ 驚きつつも 心から喜んで『神の子キリスト』を確信しました。
(新約聖書 『マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ福音書』 記述より)

キリスト教は、イエス・キリストの この復活の出来事によって 始まった宗教といわれています。その意味でも、『イースター』は 最も意味の深い大切なお祝いの記念日であり、クリスマス以上に 人の心に、『信じる』ことについて まっすぐに問われる出来事であると、しみじみと思わされます。

なお、このイースターという祝日は、クリスマスのように 日にちが固定された 祝日ではなく
【毎年 春分の日(後の満月の夜の 直後の日曜日)】とのルールで決められている『移動祝日』です。
今年は4月21日(日)に全世界のキリスト教会において主の復活をお祝いする礼拝が行われました。

つのぶえ保育園では、昨年度末に行った『最後の晚餐』での イエスさまの苦しみと 弟子たちへ 遺された “互いに愛し合いなさい” “わたしにつながっていなさい” の 御言葉に思いを馳せながら “人のせいにすることの 無責任さ・自分勝手さ” について、子ども達と共に大人こそが その心の 弱さに向き合い、考え、自らを省みる時として、今週の22日(月)に、皆で 受難礼拝を 行ない そして 今朝、深い悲しみの死の闇に打ち勝った 復活の お祝いの礼拝を 全クラスで 献げました。

今回は、乳児クラスの担任達による ペープサート&パペットを通して、イースターの出来事を感じ合いました。『イエスさまがもう一度生まれた(生き返られた)』事実を ありのままに 受け入れ その 不思議な出来事の話をとて真剣な表情で、時に 和らいだ表情で 友だちと笑い合いながら イエスさまが よみがえられたことを とて喜んで見入っていた表情が可愛らしく 印象的でした。『今も そして これからも 永遠に生きて動き 見守っていて下さる いつくしみ深い神様の御手に すべてを委ねながら、子ども達と共に 天を仰ぎ 心豊かに歩んでいきたいと 改めて 思っています 世界中のすべての人々の上に 神様からの あられる愛と平安と祝福を 心よりお祈り申し上げます。

★世界中のキリスト教の教会や施設では、イースターを祝し『イースター・エッグ』が 配られます。これは “硬い殻に包まれ 動かない卵は、一見 死んでいるように見えるけれど、やがて 新しい命が 生まれるという様子が、まさに死を克服し その闇に打ち勝つ 復活” のイメージに重ねています。つのぶえからも イースター・エッグをモチーフにしたプレゼントを 心をこめて贈らせて頂きます。御家庭でも 命の復活の出来事に お心を馳せて頂ければ幸いです。主イエスキリストの 愛と共に